平成30年度　会派調査研究報告書

（視察先１か所につき１枚）

会派名	韮　真　ク　ラ　ブ
出席者	宮川文憲　　一木長博　　田原一孝　　内藤正之　　浅川裕康
事業名	「ガス」マネジメントについて
事業区分	①研究研修　　②調査

１．韮崎市での課題と研修・調査の目的

電気・水道・ガス。これらは人が生活していくうえで、欠かすことのできない「ライフライン」と呼ばれている。本市においては、都市ガスではなく、LPガスが主流である。水道事業以外は民間事業者がこれを担っている。その一翼を担う民間事業者のガスマネジメントを学ぶことで、ライフラインに対する知識をより確かなものとし、災害時等におけるライフラインの重要性を学び、また、官民協働について、さらには民間のサービスと行政サービスの差異などについて研究し、今後の参考にしていきたい。

２．実施概要

実施日時	平成３０年7月5日（木）　　１３：３０　～　１５：００
視察先	株式会社　ミツウロコ
担当部局	営業統括部　ガスマネジメント　担当
報告内容	視察対象は、当会派の研修としては初めての試みとなる民間企業である。ミツウロコは、明治19年に創業し、LPガスの取扱いを開始したのは、昭和28年のことである。その後多くの関連施設や関連会社を設立し、あらゆる業態へ進出し、ミツウロコグループを形成するに至っている。 今回の研修においては、「LPガス」の基本的な知識から、現在の世界的需要についてまで、幅広く説明を受けた。特に、都市ガスとの違いの説明においては、その供給方法の違い（都市ガス：集団供給、LPガス：個別供給）から、災害時においては、戸単位での安全確認で済むため、災害からの復旧を非常に迅速に行うことができるとの説明、また、都市ガスと異なり、埋設配管でないため、平時における、その維持管理もしやすいとの説明には、本市行政が担う水道事業にも当てはめることのできる部分が多いと感じられた。また、液化された状態で容器に入っていることから、運搬が容易であるという点についても災害時における優位性を感じることができた。しかしながら、日本における産出量はほぼ０％であり、資源としても有限であること、またシェールガス由来のLPガス生産も既に開始されていることなど説明があり、ライフラインとしての安定性については考えさせられる場面もあった。 説明後の質疑にあっては、多くの忌憚のない意見交換がされ、民間企業としての経営努力について、行政との協定、連携についてなど、民間企業側の視点なども学ぶことができ、自治体行政だけでなく、民間も研修対象とした今回の試みに一定の手ごたえを感じたところであった。

感想（まとめ）・市政に活かせること

１．運営状況

視察研修は、株式会社ミツウロコ営業統括部、ガスマネジメント担当者の進行のもと開会し、互いの代表者及び出席者が挨拶を交わした後、担当課長から「①LPガスってどんなガス？、②都市ガスとの違い、③LPガスが利用者に届くまで、④料金と取引体系、⑤シェールガスについて、⑥世界の原油市場、動向」などについて、事業の説明をいただいた。

その後の質疑にあたっては、専門的な分野に関する説明であったことから、言葉の意味内容の補足から始まり、ガス資源の有限性や希少性について、行政との連携の有無について、災害時における取組みについて、ガス事業における雇用やAI活用など経営実態について、また、今後の見通しなど多岐にわたる質問や意見交換がなされ、担当者及び課長から、率直かつ明朗な回答をいただくことができた。当会派から謝辞を述べ、閉会となった。

２．考察（これらの取り組みを韮崎市にどう活かせるか）

研修の目的は、日頃、当たり前のように存在するライフラインについて学びなおし、その重要性はもとより、民間企業としての取組みと行政における取組みとの間にどのような異同があるかについて調査研究し、今後の韮崎市の取組みに活かせることができれば、というものであった。

研修内容は「ガス」であったが、本市行政が事業主体となっているライフラインに水道事業がある。同じライフラインとして、その重要性には共通する部分も多く、災害時など、市民の生活に直接に影響するものであるため、連携のあり方や協定内容など、万が一に備えた対応、対策について、現状の、あるいは今後の民間と行政との連携について提言していきたい。